

卷頭
言

Mamma Mia! 続続編



| 会長 山崎 學

2019年6月26日、パチカンで行われたミサに参列してフランシスコ教皇に祝福していただいた10個の十字架のお話の続きである。

2019年10月9日長崎県五島列島に飛んで、3日間で福江島、奈留島、久賀島の教会群を巡礼したが、台風19号のために上五島、若松島の巡礼を残すことになった。玄界灘が大しけになる冬を避けて、今年4月8日福江に18時12分に到着し、カンパーナホテルにチェックイン。夕食は和風レストラン望月で五島牛のヘレステーキ。コロナの影響か、観光客がいない町は閑散としていた。

上五島巡礼の目的は、コロナ終息祈願と祝福十字架を差し上げる新しい出会いを求めたものであった。4月9日、9時20分に福江港から出て奈良尾港に向かう。ガイドは前回もお願いした山口澄子さん。10時に奈良尾港に到着。予約しておいたタクシーで巡礼開始。

最初は寛政年間に潜伏キリシタンが移り住み、1961(昭和36)年に建立された高井旅教会(無原罪の聖母:カッコ内は正式教会堂名、以下同)、次に1882(明治15)年に初代教会堂を建立し、1913(大正2)年に改築された福見教会(聖フランシスコ・ザビエル)、次いで1899(明治32)年に初代教会堂を建立し、1967(昭和42)年に改築した浜申教会(聖マリア・マグダレナ)。次いで1927(昭和2)年に民家を買って教会にし、1956(昭和31)年に新築した船隠教会(ロザリオの聖母)。蛤浜海水浴場で、持参した幕の内弁当で昼食。白い砂、松、紺碧の空が何よりのご馳走。

昼食を終えて、コロナ対策で外観しか見られなかったが、鐵川與助が1910(明治43)年に着工し1919(大正8)年に献堂された頭ヶ島天主堂(聖ヨセフ)、次いで1928(昭和3)年建立、1972(昭和47)年現在地に移転した丸尾教会(王であるキリスト)、近くにある鐵川與助の住居跡を見て、1910(明治43)年、鐵川與助が設計施工した青砂ヶ浦天主堂(聖ミカエル)を見学、赤い煉瓦が空に映えて美しい。次いで1881(明治14)年に建立、1966(昭和41)年に改築された曾根教会(無原罪の聖母)。この日の宿である、上五島の中央に位置するリゾートホテル マルゲリータにチェックイン。30室ほどのしゃれたホテルでイタリアンコースの夕食をとる。五島牛のグリルがおいしい。

明けて4月10日、9時巡礼開始。1916(大正5)年レンガ造りに改築された大曾教会(イエスのみ心)、次いで山に分け入って1963(昭和38)年に建立された佐野原教会(聖ペトロ)、次いで1956(昭和31)年に建立、2010(平成22)年に改築された山の上に建つ真手ノ浦教会(聖ヨセフ)、次いで1914(大正3)年に小学校の半分を買って建立、1932(昭和7)年に改築、

さらに1984（昭和59）年に移転改築された跡次教会（海の星の聖母）、次いで1974（昭和49）年に建立、2000（平成12）年に改築された上五島のカトリックセンターである青方教会（聖家族）、次いで1907（明治40）年、鐵川與助が初めて設計施工した冷水教会（聖ヨセフ）。町に降りて寿司で昼食。地元の漁師が昼間から集まって、世間話に興じている。主人は魚市場でアルバイトして、タダで分けてもらった魚で商売をしているという。握りが大きくて完食できず。

店を出て、1903（明治36）年建立、1977（昭和52）年に改築した米山教会（聖アンデレ）。次いで1932（昭和7）年頃から上五島北部の主任協会として役割を担い、前田万葉枢機卿が司祭を務めていた仲知教会（聖ヨハネ五島）。庭にはファティマのマリア像。

山を登って、山間僻地の湧水のある場所に1884（明治17）年に建立され、1971（昭和46）年に改築された、赤い屋根の赤波江教会（聖ヨセフ）。信者は6名で、高齢化により教会閉鎖の危機に立たされている。急峻な坂道を登ること15分はかなりきつい。

山を下って、海岸線にある1882（明治15）年に建立された江袋教会（イエスのみ心）、次いで1913（大正2）年に建立され、1955（昭和60）年に改築された大水教会（聖ミカエル）、次いで1951（昭和26）年に建立された質素な小瀬良教会（聖ヨセフ）。次いで1914（大正3）年に伝道学校として始まり、1950（昭和25）年に建立され、1969（昭和44）年に改築された焼崎教会（聖アンナ）。次いで1947（昭和22）年に建立され、1989（平成元）年に改築された猪ノ浦教会（聖イシドロ）。ここで本日の巡礼は終了してマリゲリータに戻り、和食コースの夕食。石鯛、五島牛のご馳走で満腹熟睡。

明けて4月11日、8時半から巡礼開始。1925（大正14）年に建立、1966（昭和41）年木造で鐘塔を増築し、入り江の水面に映る姿が「水鏡の教会」と称されるほど美しい中ノ浦教会（おとめ聖マリア）。次いで1925（大正15）年に建立し、昭和20年代に民家を買って移転した若松大浦教会（イエスのみ心）。次いで1897（明治30）年に建立され、1958（昭和33）年に改築された桐教会（聖ペトロ）。次いで若松大橋を渡り若松地区の山間にある1892（明治25）年建立、1958（昭和33）年に現在地に移転改築した大平教会（被昇天の聖母）を目指し林道を抜けること30分、到着するもコロナ感染対策で教会内に立ち入り禁止の看板。林道の入り口に注意書きくらいの心遣いがほしかった。次いで1927（昭和2）年建立し、1974（昭和49）年に改築された有福島の有福教会（聖フランシスコ・ザビエル）。最後に1915（大正4）年に建立された土井ノ浦教会（イエスのみ心）で、上五島・若松地区29カ所の巡礼終了。

土井ノ浦港から高速船で福江港に戻る途中、港を出て左手に隠れキリシタン3家族が潜伏していたキリシタン洞窟が見えた。朝食の支度の煙を報奨金目当ての漁師に通報されて、捕縛され拷問にかけられたという悲しい話が残っている。福江港から歩いて福江カンパーナホテルにチェックインし、夕食は飽きずに和食レストラン望月で五島牛ヘレステーキ300gに挑戦。

嵯峨島の嵯峨島教会、コロナ対策で上陸禁止だった野崎島の旧野首教会、福江島南部の玉の浦教会、繁敷教会を次回巡礼に残して4泊5日の巡礼旅を終えた。緊急事態宣言発令前であったが、どの教会も入り口でアルコール消毒して入る措置が取られており、閑散としたなかで祝福十字架を差し上げる出会いがなかったのが残念である。